

# 大人計画公演「親切伝」完結編 嫌な子供

1989年9月1日～3日 明石スタジオ

## キャスト

恐竜使い……………温水洋一  
股に枕の母……………片葉みはる  
巨人……………常盤千春  
出前持ち……………新藤美和  
椅子……………山川智子  
指洗器……………戸村由香  
古い奴……………為沢千恵  
栗山みち……………竹内恵子  
チヨンマゲ……………松尾スズキ

## スタッフ

作・演出……………松尾スズキ  
照明……………佐藤啓  
音響……………長谷川周平  
舞台監督……………佐野あーこ  
衣裳……………河合美里  
道具……………アリババ計画  
宣伝美術……………ホットウオータース  
制作……………北島由香  
……………出口容子／大人計画／長坂まき子

## あとがき

これ以前の「親切伝」シリーズ二作の世界観を、『嫌な子供』で無理矢理重ねたんですけど、これが一番複雑で訳わかんなかったんじゃないかな。もう観念の世界に入ってますからね(笑)。すべてナンセンスでつなげてはいるんだけど、でも自分の中では逃げたとは思ってないですね。いろんな物語が収斂していく——ま、収斂っていうか爆発でもないんですけど、一応の解決を見せていくから。

前作『マイアミにかかる月』(88年)はここまでナンセンスにはなってなくて、シリーズ三作の中では一番ウォネガットの世界に近くて、一番物語の完成度が高いと思ってるんだけど、この作品ではそんなことをもつふつとはして、とにかく希有壮大で波乱万丈な話を書きたいと思ってたんだな。

でも劇団員がどつと抜けて女ばかりになって、もうどうしたらいいかわからないっていう時期でもあった。それにヤケというフアクターがプラスされて(笑)。二時間半から三時間くらいあったんですけど、これはもう、脳の訓練(笑)。いったい人間の脳というものがどれくらいのイメージを一つの公演の中でつめこむことができるのかっていうことに挑戦した男の記録ってことじゃないかな。

でもこんなの、他にはないですよ。だから最近の新しい劇作家のやつを見て驚かないんですよね。なんか小さい感じがして。どうせお前は何百人にしか見られてないんだから、はじめてみたら思うんですけどね。これは僕の書いた中でも一番はじてるんじゃないかな。はじてつつも、なんかちよつと哀愁があるでしょ。あと、すごく小説に近い感じがしますね、これは。

あと、僕は出演してるんですが、僕が始めた頃って野田秀樹さんとか渡辺えりりさんが活躍していて、書いて演出してる人が出てくるっていうのをわりと当たり前な気持ちで見えてたんです。唐(十郎)さん好きだし。唐さんほどは自分が出られないけど(笑)。とにかく、自分がやるうとしてる役に関しては、本を書くとき迷わないですよ。自分にできることとできないことが、わかっているわけですから。

(2000年3月・談)